

第4回長野県生涯学習審議会 委員発言

日時：平成21年6月1日(月)13:30～15:45

場所：県庁議会棟3階 第1特別会議室

土井会長

資料2の「答申の概要」の中にある、3つの柱それぞれについて、4つの重点の項目について、答申のサブテーマについて、検討をお願いしたい。まず、第一の柱「生涯学習の基盤づくり」についてご意見ををお願いしたい。

小島委員

生涯学習は子どもからお年寄りまでということ。幼年期、青少年期、中高齢者の分け方だが、幼年期はどこまでのことか、青少年期をひとくくりにしていいのか、どんな分け方がいいのか。全員が入るには、このくらいのくくりがいいのか。

松村委員

少年期は義務教育諸学校の児童・生徒を指しているもので、7歳から15歳くらいを指します。青年期については、以前は義務教育終了後からおよそ25歳未満の者を青年と呼ぶのが通例となっていました。しかし、結婚平均年齢の上昇や在学期間の長期化を背景に総務省青少年対策本部の青少年意識調査などでも30歳未満を上限とする見方が多い。

私どもも、青少年教育施設ですので、対象の幅がとても広いわけですが。生涯学習というのは、幼年期から高齢の方までなのでもっと幅が広い。ただ、中高齢者となっていたり、中高齢期になっていたりとところがあるので、統一がある方がよいと思う。

土井会長

基盤づくりということで、幼年期からスタートする家庭教育を重視するというメッセージが出ている。また、基盤づくりだから人材の養成 指導者・推進役の養成を含めている。

坂本委員

昨日テレビを見ていたら、乳児の学習が将来的に大切だとやっていた。PTAの中でよく出る言葉だが、「乳児は肌を離さず、幼児は手を離さず、少年は目を離さず、青年は心を離さず」と言われている。乳児も加えていただけたらと思う。

土井会長

乳児期について事務局で辻褃の合うようにしていただいて、要するに生涯学習として全段階を配慮されているというメッセージが伝わればいい。

小泉委員

特段ない。生涯学習の基礎づくり、多様な学習機会の活発化、学習情報の提供体制の充実、文字を読んでいくと理解しがたいところがあった。どう書いたらいいか。

臼田委員

「生涯学習の基盤づくり」として挙げられている項目としてはいい。指導者や推進役の人材の養成は急務であるというところで、載せていただいている。多くの人に参加できるような状況になっていった方がいいと思うので、コーディネーター、指導者、推進役の人だけが育てばいいのか、とちょっと疑惑的なものが受け取られたところがあるので、一考いただければいいのかと思う。

塚田委員

幼児期を含めたという話があったが、ここで言いたいのは小さい時から地域に交わって色々勉強するという姿勢を生涯保てるような基盤をつくりましょうということだと思う。現実問題として、幼児を巻き込んで地域で育てていくということができればそんないいことはないが、現実的に幼児までを謳って果たしてできることかという疑問な点がある。ここで言いたいのは、できるだけ若い時から地域に交わって学習していきましょう、それが一つの基盤づくりですよと言っていると思うので、年齢にこだわることもないと思う。ただあまり若すぎると、今の社会で現実問題として可能なかどうか、ちょっと疑問に思う。

土井会長

子どもの課題は即保護者の課題になってくると思う。生涯学習を重視していく私たちとしては、乳幼児期から既に入っている、親子一体の中から学びが進んでいくということだ。

塚田委員

幼児を育てている親が地域からいろいろ教えてもらう、それは非常に大切だと思う。

水野委員

大変よくまとめてある。総合すると意味がわかってくる。

土井会長

2つ目の柱。「地域全体で子どもの未来づくり」についてご意見を伺いたい。

神津委員

全体的によくまとまっていて、前回よりわかりやすく、すばらしいと思う。この中で気になるのは、「子どもと大人の共育の推進」で、放課後子ども教室は国・県の大きな事業で、

すばらしい事業であるが、県内の各市町村でも、他のタイトルでやっているのがある。あえて、放課後子ども教室を県でやっているのが結構だが、それプラスこういう関連の事業を2、3項目入れておいた方が、長野県全体でつくった一つだということになるから、その幅をもっといただいた方がいいのではないかと。保護者と保育士に対してやっている児童館の関係を市町村がやっていると思うが、関連した事業を県内市町村で相当やっているし、生涯学習の一環で、ただ子どもを遊ばせるではなくて、将来大人とのかかわりにもっていきましょうということを含めて、児童館の運営をしていると思うので、そういう項目を入れていくのも一つの手ではないのか。

小泉委員

子どもの未来づくり、ということで、環境を含めての部分かなということで、いわゆる、次世代育成支援という視点から、学校・家庭・地域との連携があるが、子どもの未来づくりという環境づくりには、次世代育成支援と関する部分に関係するのかなと思う。そういう文言をいれたらどうか。

白田委員

家庭も巻き込んでいただいているので、内容としては、どこも切り捨てることもなく入れていただいているのでよい。

坂本委員

あえてここに入れていただかなくていいかと思うが、千曲市で千曲万博というイベントがあって、19カ国の人たちが色々なブースをもち、それぞれの国の文化を紹介するところ、老若男女の方たちが集まってとてもにぎやかに生涯学習をさせていただいた。今100年に一度という世界的経済不況から始まって、新型インフルエンザ、地球温暖化などグローバルな問題が出てくる中で、子どもたちがもう少し外国に目を向けるような一言を入れていただければありがたい。

松村委員

1番と3番は短くてわかりやすい。2番は、たぶん、「地域全体で取り組む子どもの未来づくり」だと思う。「取り組む」が抜けてもわからないことはないが、より具体的なわかりやすい言葉で出すとすれば、「地域全体で取り組むことが大切だ」という文言が長くなるがいいと思う。推進や連携が出てくるところは、取り組みが大切で、2番目だけ長くなってもいいなら、入れていただきたい。

土井会長

あるいは逆に短くして、「子どもの未来づくり」だけにするのはどうか。

松村委員

1番3番のように2番も短く、「子どもの未来づくり」としてしまった方がわかりやすいのかなとも思う。

土井会長

未来づくりをするには、当然ここに書いてあることが出てこなければいけないのだから。それでは、第3番目の「地域コミュニティの再生」について、お気づきのことをお出しください。

塚田委員

さきほど説明される時に、ここのところがちょっとドラスティック（強烈）かなと言われたが、私は大変すばらしい、こういうことが必要だと思う。これが入っていることはいいことだ。地域を再生するときにリーダーシップということが必要になってくる。シニア世代にがんばってもらいたい、青少年も核になってもらいたいとはっきり書いてもらってあるので、とてもいいことだと思う。ぜひ入れるべきだ。

この会では公民館について非常にご意見が出てそのとおりだと思ったが、そこにプラス図書館のことが述べてある。大変すばらしい。図書館も地域の中で学びの場として重要な役割を果たしている。31ページに図書館について詳しく述べてあったその通りだと思う。ただ一つ、答申の内容とは直接関係ないが、答申を県民の皆様に見ていただくまでに是非お願いしたいことがある。県立図書館は国民の祝祭日が休館だ。やはり一番使いたい人が使いたい日だ。我々民間なら使ってくれる日なら必ず空けるのだが、使いたい時が休みになってしまう。大変失礼な言い方だけれども、いかにもお役所的と感じる。図書館が大切だということなら、答申を発表するまでにそこをご検討いただければと思う。

土井会長

博物館は入れなくていいか。色々な博物館があるから。

水野委員

総体的なことは読み取れる。地域コミュニティが崩れたのは何かというと人間関係が希薄になったということで、ちょっとこんな文章が、「愛と思いやりに満ちた、心豊かな人間社会の構築」というのがあれば楽しくなるかなと。全体の中からは読み取れるが、なぜコミュニティがダメなのか、子どもの未来って何なのだと考えていくと、物量的なもの以外に心の問題がかなり大きくあると感じる。心豊かな人間が生まれて育つ社会の構築ということが大事じゃないかなと思う。物量教育と人間教育は違う。いろんな知識を溜め込み、それを生涯生かすことは大事なことだが、それ以前として人間として生きていくコミュニティを温かいものにするには人間愛というものが出てくる。

土井会長

大きな願いであり、基本的な視点である。

小島委員

難しい言葉がよくわからない。「地域課題の学習や・・・」と言われると何のことだろう、それをまず学ばなければいけないのかと思ってしまうので、だれが見てもこういうことを言っているのがわかる、もう少し易しい言葉でもいいのではないか。他の所でも難しい言葉が出てきて、漢字が読めないところもあるので、もう少しやわらかい形でもいい。

土井会長

「関係機関等との連携」で、NPO・企業が挙がっているがこのような表現でよいか。

臼田委員

関係機関等なので、学校も入れていただければいい。学校は、小学校から短大・大学・専門学校、様々な教育機関があるが、一言入れていただければよろしいかと思う。

小泉委員

「地域コミュニティの再生」を重く受け止めなければならないと思っている。水野委員も言われたが、日々の生活とか経済を優先する環境下にあって、人と人とのつながりが希薄になってきてしまった。よって、地域コミュニティの大切さの土壌をつくるために、きちっとやる部分なのか。あるいは「地域力」ということで、行政等が地域に係る部分で深く入って喚起するのが難しいから、できるだけ地域で、自分たちで解決していけるようなコミュニティになっていくためのものとして書いてもらっているか、どのレベルまでなのか。行くべき場所はそこなのだろうが、前段に区分されたようなとらえ方でいいのかとは思っているが、もし、聞けたら聞きたい。

塚田委員

「地域全体で子どもの未来づくり」のところでも、企業に自分の所の守備範囲を委託しなさいよと述べてある。「地域の再生」ということでも、当然企業もその地域の中で活動させてもらっていることなので、入ってくるのも当然。

土井会長

「地域コミュニティの再生」の項目においては、地域課題というのはどういうことを意味するのか、地域ごとに違った課題はあるだろうが、表現について再検討していただきたい。シニア世代や青少年を核にする。学校・企業における活動を促進する。地域の学びと活動の拠点づくり。地域の課題について学ぶのが地域の学びだと思う。地域の再生を行う

場所として、公民館や図書館、博物館を拠点とすることが大事である。その時に、関係機関等との連携を深めていくことが必要だ。学校や企業、NPO等と連携を推進する。その時に重要なのは、愛や思いやりに満ちた人間の教育にあたっていくことだ。地域の郷土愛、地域の人の愛や思いやりに包まれていく、そういうところにコミュニティが誕生していくんだ、と。

本答申の3本柱についてご審議いただいているが、ここで、矢崎教育委員長に我々のご議論をいかにお聞きいただいているか。茅野市で長年にわたって生涯学習を推進している。’

矢崎教育委員長

ご指摘をいただいた中で、もう少し分かりやすく言葉を使った方がいいというご指摘があったが、ぱっと見てそういう感じがする。行政が使い慣れてきている、国が言っている言葉がそのまま来てしまっているところがあって、特に地域課題は何かということとはっきりした方がいいと思う。茅野市のパートナーシップによるまちづくりの地域課題は、福祉と環境、教育というように最初に打ち出した。地域の福祉力・地域の治安力、地域の防犯力、地域の教育力、もともと地域のコミュニティの中には、お互いに自助・共助という中で、自分たちのことは自分たちで解決する能力がこの国にはあったと思う。それが、税金がたくさん入ってくる、高度成長になる、なんでも役所がやりましょう、どんどん手を出していった。その中でお互いの自助力・共助力がなくなって、その結果コミュニティというものの、いわゆる地域力がなくなってきたということがあると思う。地域の課題というものを、もうちょっとはっきりと書かないとわかりにくいかなという気がする。コミュニティの中で、ぱっと見ると、教育のウエートが高いという感じがする。教育委員会がやるということになってしまうのだが、コミュニティというのは、教育だけでなく、地域福祉だとか、生活環境だとか、もっと身近な問題があるので、そこら辺は少しくローズアップした方がコミュニティの地域力というものがわかりやすいのかという感じが、今のお話を聞きながら、同じようなご意見の方がいらっしゃるかなと思った。

土井会長

白戸委員が見えたので、一言ご発言をお願いしたい。

白戸委員

答申ということで、こういう形になるのかと思う。言葉で細かいかと思うが、「自治」という言葉が入っていないということにちょっとひっかかりをもっている。先ほどからの議論のところだと思うのだが、これまで行政が手を出しすぎたという部分と、一方で住民が個人のお金でほとんどのことが解決する時代が長かった。したがって、社会経済の構造を背景として、地域がやることが限られていたということです。しかし、それが今変わってきてつつある。簡単にいうと、地域の中で決められないのが、今の地域だと思う。たとえば、

僕の町会だと、年間予算は百万円ちょっと。大きな連合町会でも、一千万円超えるところはめったにない。しかも、8割から9割は前年踏襲で、今やっている役員の人たちが何か判断するとか決断するとかの余地がないような構造で地域が動いてきている。ところが、今、都市内分権とか言って、何千万、何億とかいうお金を自分たちで決めろと言われても、皆腰が引けてしまうのではないかと思う。とても町会長さんや区長さんたちがまとめ上げるだけの自治力が地域の中にはない。その辺のところから作り直していくというのが、「地域コミュニティの再生」の意味ではないかと思う。どういうふうにするかではなくて、少なくともそこに住んでいる人たちがどうやって自分たちの地域のあり方を合意していけるか、時にはお互いに仲が悪い、嫌なやつとどうやって折り合いをつけていくかというところだと思う。したがって、自治力が必要だと、そういう言葉がどこかに入ってくればありがたいかなと思う。

もう一点もここにかかわるが、行政がやり過ぎたという反動かもしれないが、逆に言うと、公民館ひとつとってみても、行政の職員の考え方というか、「これからは住民が自立してもらうために全部やらしてもらおうのだ」ということが、住民に押し付けるのと、住民が自立するのでは違う。要するに、なんでもかんでも住民にやらしてもらえばいいという問題ではなくて、行政が存在する意義があるとすれば、行政がどこをやり、住民がどこをやるか、自助・共助・公助と言うが、その線引きをする部分も、資料2の中には書けないが、答申を出す上でそこは必要なのではないか。具体的に言うと、ひとつ間違えば、公民館は民間で、NPOでも地域でも作ってやらしてもらった方がいいのではないか、という話になってくるが、しかし、地域の現実の中で、行政がピシッと入る意味というのがある。中立性とか公平性とかを担保にしていくという部分と、どう住民の自立と折り合いをつけていくか、その辺のところを議論いただければと思う。

土井会長

続いて、答申の概要の下に書いてある4つの重点についてご審議をお願いしたい。『つながり』というふうに覚えやすくキャッチフレーズが挙げられている。今まで見てきた3つ柱の内容を、より具体化するために重点として示されている。ご意見をお願いしたい。

松村委員

キーワードとなっているので覚えやすく、県民の方が見てもこの4つが重点だと分かると思う。最初（概要の方は）『つながり』の『つ』のところ、二つあったのでどちらか一つの方がいいと思っていたが、33ページのほうではつなぎ役と推進役の人づくり」の1つになっているので、こちらの方がいい。

その中でも、前にも出たように生涯学習行政に携わる職員の資質の向上ということで、専門的職員の配置ということを書いていただいたのは、よいと思う。

坂本委員

キャッチフレーズが『つながり』で、とても分かりやすくいいと思う。「つなぎ役と推進役の人づくり」ということで、次の「長野の魅力を次世代へ継承」それらを踏まえて、さっきのところに戻ってしまうが、次世代に継承する魅力を十分に分かった方というのは、やはり長く生きられた高齢の方じゃないかと思う。先ほどの「地域コミュニティの再生」のところだが、シニア世代というのはどのくらいの年代幅か。

事務局

シニアということの定義がなかなか難しい。一般論の中で使わせていただいている。文部科学省、厚生労働省ではおそらく概念がちょっと違っていると思う。一定の定義というのはなかなか明確に示した中で使わせていただいたのではない。ただ、あくまで審議会の答申なので、新たに出していくことになれば、きちんと整理していく。

坂本委員

私は千曲市に住んでいるが、姨捨山伝説というのがとても有名。年老いたおばあさんが、知恵を出して町を救ったというお話だが、そのおばあさんの知恵をまちづくりに生かすという点で素晴らしい伝説だ。

先ほどの「生涯学習の基盤づくり」では中・高齢者の学習の機会とあって、「地域コミュニティの再生」ではシニア世代を核となっている。シニア世代の概念がよくわからなかったので、高齢者はもう核にはなれないのかなと思ってしまった。今90歳の方で、生涯学習に取り組んでいる方がいらっしゃる。生涯学習に取り組んでいる人は年齢が9がけ、8がけというふうで、70歳くらいに生き生きとがんばっているご高齢の方がいる。この方の力をまちづくりに生かしていくために、核となるシニア世代には高齢者も含まれ、「地域コミュニティの再生」の担い手であることをアピールしてほしい。

小島委員

『つながり』よく考えてあるが、言葉が難しい。中に細かく書いてあれば、もう少し易しくてもよい。かえて易しくしておいた方が中を見てもらえるという思いがある。

神津委員

『つながり』の『な』の説明について。地域の「文化力」をどういう見方をするのか、難しい。文化力、文化、次世代へつなぐということからは自然をどういうふうにつないでいくのか。観光面を通していくのか、もろもろ考えて、文化というのか、「文化力」の表現の仕方を分かりやすくするのか、幅広く理解させるような言葉にするのか難しい。

事務局

「文化力」という言葉は、資料2の下に書いてあるように、長野県文化芸術振興指針の中で新たに使っている。

今までは、どちらかという学習機会の場の確保にかなり重点を置いた答申だったと思う。今回は、学んだ成果を地域にどんな活用をしていくのかが一番のポイント。それを自分の中に止めてしまうのではなく、地域の中に活用してもらい、広めてもらう、そこから知の循環型社会、学びの循環型社会が生まれる。地域と言っても、様々な成り立ちや状況、歴史が違って、長い間培ってきた文化・伝統がある。それらを何とか言葉に表せないかというのがひとつの課題であった。

振興指針が出た中で、「文化力」はそれぞれが持っている特徴を捉えた形で使わせていただいた。定義が明確でなく、初めて聞いた時に分かるかという意見は当然あると思うが、あえて提案したので、易しい表現がよければご審議をお願いしたい。

土井会長

資料の欄外に「地域の魅力や価値」とあるが、その方が通りが早いと思う。「文化力」とひとつの言葉にすると難しい。

小泉委員

『つながり』の『が』の説明。「全国最多の公民館」、全国最多という言葉がここに入ってくる必要があるか。

臼田委員

『つながり』の『り』、利便性の向上の説明。民間等との連携が書かれている。素案にも民間教育事業者、NPO、ボランティアグループ等民間団体と記載されているが、本会で土井会長や白戸委員から学生の活動の状況を聞いて、若者たちの力の大きさを感じている。そういう部分も加味していただければ。

『つながり』の『つ』、コーディネーター・指導者の部分でも同じように地域で活動するNPO、ボランティア等を対象にとあるが、大学だとサークル活動など学生が引き継いでいくことができるので、そういうことも入れていただきたい。

水野委員

誰が見ても分かる文章構成が大事。

塚田委員

基本的方向（目次では3・4・5）に、生涯学習の必要性やどのように推進していくのか、「学びが循環する社会の創造」がうまく書かれている。うまくまとまっているが、『つながり』がこじつけ的に感じて、なぜ『つながり』なのかと思ったが、教育振興基本計画

に「つながる」等があって理解できた。

答申では、3つの柱から、今まで述べてきたことを『つながり』という言葉で具体的にしているということ、うまく説明していただきたい。

白戸委員

本文を読んでから見ると、とてもよく分かる。分かりやすく書いてある。「つながり」は言葉としてすごく大事だが、ここは「分かるために」ということだけに絞って考えると、易しい表現が良い。例えば「利便性の向上」は「利用しやすい」など分かりやすい言葉で。

『が』の「学習と地域活動」とあるが、学習と地域活動が別のようなイメージがある。表現を考えてほしい。素案の本文では学習と実践と表現されている。

土井会長

『つながりで築く長野県の生涯学習』で言いたいのは、長野県の生涯学習の特色はどこに有るかということを知りたい。順序を反対にして『長野県の生涯学習 つながり』それは何なのかというと、そこに解説が出てくる。

小学校1・2年生の生活科を担当しているが、学生に「生活科って1年生に何と言って説明するか、難しいことを難しく言うのは簡単だが、1年生は分かってくれるか。」と言ったら、学生が考えた。4枚の画用紙に「せ」「い」「か」「つ」と書いた。「せ」は精一杯、「い」は一生懸命、「か」は・・・、「つ」は・・・と説明したら1年生が分かってくれた。

長野県の生涯学習は、難しく言えばいっぱいあるけれども「つながり」なんだ、要するに。「つながり」が秘めている人と人とのつながり、地域の伝統・文化とのつながり、諸外国の人とのつながり……。あらゆるものをつなげて、そこから学びをしていくのだと言いたい。なるほど、というものが『つながり』からできればいい。

4つの重点の矢印の向いている方が重要。

一番目は、コーディネーター・指導者の養成と活用。コーディネートする人を養成することが重点である。

二番目は、地域の「文化力」、文化の魅力を再発見する活動の推進、豊かな自然を生かした体験活動の推進、こういうことが生涯学習の中身。内容的に非常に分かりやすい。

全国最多ということは検討するとして、公民館を活用した地域活動の推進。図書館・博物館等との関係もあり、公民館だけを取り上げるかどうかは再検討の必要があるが。

ICTの活用、民間等との連携・協働の推進。最新の科学技術を生かして、時代遅れでないようにしたい。

以上、重点についてご意見を伺った。

土井会長

続いて、本審議会においては二つの観点を示されているが、「新しい時代にふさわしい長

野県の生涯学習振興のあり方について」答申することが求められている。長野県らしい生涯学習振興のあり方について、どう一言で説明するか。そこに仮の題・サブテーマとして挙げられているのが『学びの絆で地域力を高める生涯学習の推進』。下にもいくつか例が挙げられているが、サブテーマについてご意見をいただきたい。

坂本委員

『つながり』というキャッチフレーズがあるので、「学びのつながりで～」のようにと「つながり」という言葉を入れたほうが、生涯学習＝「つながり」というところでインパクトが大きいと思う。

(重点の)『つながり』の左側のコピーはもっと短くしたほうが良い。右側の説明は長くてもよいが、左側は短い方が小さい子から高齢者までみんなに覚えてもらえるのではないかと。PTAは「パッと楽しく集まろう」と最初に言われて、堅苦しく考えなくても楽しく活動していけばいいのだと思ったのと同じだと思う。PTAは「ポジティブ、楽しく、アクティブに」というキャッチフレーズもある。誰でも覚えやすいキャッチフレーズを付ければさらに生涯学習が市民に浸透していく。

塚田委員

『つながり』ということがよく分かったので、サブテーマにも「つながり」という言葉が入ると良い。例えば「学びの絆で地域のつながりを高める生涯学習の推進」とか。ただ地域のつながりと地域力はイコールではないような気もするが。無理やり入れることはないが、どこかに入るとおもしろいと感じる。

松村委員

7ページの図については、「学び」というキーワードで生涯学習を推進していこうということだと思った。図のほうの方が分かりやすいが、「循環」なので、サイクルもしくはスパイラルになると思う。事務局の説明は左側の「人や地域とかかわった学び」から始まった。体験学習のサイクルでも「体験」「指摘」「分析」「仮説化」と回っていく。サイクルだから、どこから始まってもいいかと思うが、やはり上(体験)から始まって回っていくというのが、わかりやすいと思う。

「人や地域とかかわった活動からの学び」がまず一番始めにあると思う。次には何がくるか。成果がふたつになっている。今までは学びで終わっていたが、学びの成果を人や地域に生かす活動に参加するのか、学びの成果から新たな課題を見つけるという新たな学びをするのか。今は考えてみたが、うまく4つの形にならない。

もうひとつは、サイクルとかスパイラルならば、なぜとになっているのか。なぜ真ん中に重なる部分があるのか。回っていくならば回る形にした方が良いのでは。重なりは「活動」なのか。図は分かりやすいので、事務局でいい案考えていただきたい。

水野委員

ちょっとダブってくることがあるので、理解しやすい表現の仕方を一考した方がいい。書いてあることはいいと思うのだが、理解しやすい方がこの文章を読むのかなと感じる。

小島委員

キャッチフレーズというのは、見なくても言えるものだと思う。「学びの絆で地域力を高める生涯学習の推進」は、見なければ言えない。そうではなくて「つながりで生涯学習をしよう」というように簡単な言葉でいい。それは、何を言っているのかとなった場合の中を見ればよいのであって、キャッチフレーズは誰でも言える言葉がいい。

神津委員

「学びの絆」素晴らしい言葉だ。項目について。理解の仕方だが「2 学校・家庭・地域等、地域全体で連携して家庭・地域の教育力の向上を図る。」という表現だが、前段では「学校・家庭・地域」の三つがあげられていて、次は「家庭・地域」になっている。学校については、先ほどの教育振興基本計画があるからと思うが、この文章を見ると学校の教育力の向上はどうするのだという見方になってしまう。この項目は、子どもの未来づくりについてだということなので、「学校と家庭と地域で連携して子どもの未来づくりをしよう」という感じの説明のほうが分かりやすいという気がする。

小泉委員

「学びの絆で生涯学習」について、長野県に生まれ育って、いろいろな人とか地域とかかわる等、その中から下の1・2・3が出てくる。一番大切な「人」を意識した言葉がないのかなと思う。具体的な言葉は出てこないのだが、何かそういうものがほしいという気がする。

白田委員

「つながり」「絆」「地域力」という言葉はすてきな言葉だ。「地域力」という言葉を聞くと力が湧いてくる。自分もこの地域の一員だという気持ちもするのでいい。

白戸委員

自分もこれまで答申づくり等にかかわってきて、キャッチフレーズなども、分かりやすいもので中学生が読んでも分かるものを作ろうとしても、読まない人は読まない。これは、ある種こちらの思いをぶつけるものなので、『つながり』のようなものは別として、分かりやすくするよりは、大事なことをきちんと盛り込んだ文章にしておいた方がよい。

そこから先は、作ることも実際に生かすことが大事。その中でやること。一番分かり易いということとは、多少異議を醸し出したり、下品になったりする。

例えば、「地域に成果を返そう」というのは、返さない人がいるからこういうことになってしまう。やっている方が悪いわけではないし、全員ではないので誤解がないようにしてほしいが、例えば老人大学で勉強すると、中には「自分は老犬出だ。老人クラブのようなレベルの低いところと一緒に草取りはできない。」とか言ってしまう人がいる。また、地域の人「あの人は老犬出だから、お高くとまっている。」で終わってしまう。却って学習したことが地域から人を離してしまう。それをやめて、地域に戻ってバリバリ何かできるような、そういう学びにしようと言うととても分かり易い。でもそれは言えない。

公民館関係の講演会などでは「がんばろう、公民館」とか「地域の拠点としての公民館を考える」とかの題がある。それを聞いた途端に、来る人は「ああ、1時間ばかりまたつまらない話を聞かされるな。」と思う。自分が付ける題は「公民館役員の憂鬱」。来る人は不幸せな気持ちで来ているわけで、なりたくてなったわけではなくて役が回って来てしまった。そこから始めないと本気にならないと思う。

むしろ中身の方、これから使っていく方で勝負するほうが良い。ここは、説明する時に「ここはこういうふうを書いてあるけれども、こういうことだ。」というような、内容をきちんと盛り込んでおくことが重要だ。

土井会長

ご意見を伺った。今後、事務局に願います。答申の素案について、お気づきの点を出していただきたい。

塚田委員

23ページの「開かれた学校づくり」の表現について。大阪の池田小学校の事件があったが、これだけ読むと、一般に公開しなさい、学校の中に誰でも入って良いという方に読めてしまう。内容を読めばそうでないことは分かるが、教育委員会として防犯ということをどのように考えているか。

事務局

「開かれた学校づくり」の前段として「地域の中に開かれた学校づくり」という意味合いが非常に強い。そのような観点から整理をした。しかし、様々な課題が当然ある。安全・安心な学校運営という裏腹な問題もある。現状からいくと学校体育館の夜間開放などの中で、地域の関わりが非常に大きな部分がある。思いとすると「地域の中に、地域に開かれた学校」ということである。

神津委員

8ページ 「1(1)生涯学習の基礎づくり」の2行目、「家庭・学校・地域」の並びは上の表現(地域全体で子どもの未来づくり 学校・家庭・地域等～)にあわせた方が良い。

検討してほしい。

10ページ 「(3)地域の学びと活動の拠点づくり」の下から2行目、「住民自治や住民の地域活動を～大切です。」とあって、その次「学校は、～期待されます。」と弱腰になっている。どうしてこういう形になっているのか、同じように「大切です。」にできるか検討を。

22ページ 4 学校・家庭・地域の連携協力の1行目、「家庭や地域に教育力の低下が懸念される中～」とあり、この通りだが、学校の立場、義務教育なり、高等教育なりの立場の解釈を一般の人が見た場合どう理解するか。学校はどうなっているか、表現をぼかしても入れた方が良くと思う。

25ページ 「(1)地域課題の学習機会の充実」の中で、「これらの課題解決に向けて～」から2行目。「個人のニーズに応える学習だけが～」のところ。「学習だけ」に限定されてしまうと、公民館もちょっと……。他もやっているのだから「だけ」をとっていただきたい。「学習が多く～」となるほうが限定されなくて良い。

29ページ 「3 地域の学びと活動の拠点づくり」の5行目、「長野県の公民館の原点にかえり、」とあるが、先日公民館の大会もあった。活動方法は違うが、原点に基づいて活動しているので、ここであえて「原点にかえり」という表現は、原点に基づいてやっていないのかと受け止められると困るので、表現を削除なり考えていただきたい。その下、「その成果を地域活動に生かしていくことが必要です。」とある。そのとおりだが、「地域活動にさらに生かしていくことが～」としてほしい。

30ページ 中段の5行目、「社会経済の変化や～今、公民館のあり方が問われています。」とあるが、とらえ方によると、公民館を指定管理者や民間に と解釈されてしまうと困るので、違う表現にしてほしい。全体的に見ても「問われている。」という表現がない。ここだけ強調されても困るので、基本的には削除の方向で検討をお願いしたい。その下の「原点に戻り～」の表現は先ほどと同じ。まとめとして「これまで以上に取り組むこと」と前向きにまとめているので、見直しをお願いしたい。35ページにも「原点」という表現があるので、それも含めて検討をお願いする。

事務局

公民館の部分を中心に今回強調したのは、第3回までのご議論にあったように、地域の教育力を考え、学んだ成果を生かしていく場としての公民館の位置づけを、特に委員の皆様から大きく取り上げていただいた。できるだけ強調して書かせていただいたので、若干思いが強すぎて入っていたかもしれない。ご指摘の点は事務局で精査させていただきたい。

小島委員

言葉について。1ページ 「はじめに」のところで、10行目の「そこから」は何を指すのか、違和感がある。検討してほしい。

2 ページ 3 段落目の「本県でも、全国の趨勢と～」の「趨勢」が読めない。あまり読まない漢字が使われると難しい。

9 ページ 「2 (1)子どもと大人の「共育」」の推進の3行目、「大人もそうだからと言われています。」の表現がおかしいと感じた。前後確認していただければと思う。次の「学校・家庭・地域が願いや課題を共有して、～」のところ「願い」というよりは「目的」という言い方がよいのではないか。後の方の「願い」はあまり気にならなかったのだが、ここでの「願い」はどうか。

13 ページ 下から3行目、「地域において小さな役割をもてる機会を広げ、～」の「小さな」はどのようなことを言っているのか分からない。「小さな」はいらぬのではないか。

土井会長

これから総仕上げに入っていくので、皆様のご意見が非常に貴重になる。それでは、素案についての意見交換はこれで終わりにする。